

令和7年度予算案 **2.0** 億円（令和6年度補正予算で**1.3** 億円計上）
令和6年予算額 **1.2** 億円

1 事業の目的

本事業は、**障害者の自立や社会参加等の促進に資する支援機器の開発及び普及促進の取組に対して補助を行うこと**を目的とする。

支援機器の開発においては、市場が小さく個別的で多岐にわたる製品が求められることから、機器開発企業が着想段階から事業化を検討する際に支援するための人材を育成し、障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングを図ることで障害に応じた機器開発が可能となるよう支援する。

普及促進の取組においては、支援機器の特徴や使い方等の情報を整理して広く情報発信することにより、支援機器の利用促進を図るとともに、実際に支援機器を使用してその効果を実証することを通じ、より障害者に適した製品となるよう改良を図り、支援機器を利用した障害者の社会参加等を促進する。

2 事業の内容

（1）自立支援機器の開発事業

①テーマ設定型事業 ②製品種目特定型事業 ③指定補助金等の交付等に関する指針(SBIR)(※)に基づく事業

障害者等の日常生活やコミュニケーションを支援する機器等（8テーマ）及び、盲ろう者が在宅で日常生活活動を行えるように支援する機器等（4種目）の機器を開発している企業、さらに支援機器の開発を目指すスタートアップ企業に対して、開発に要する費用の一部を補助する事業。

※「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」に基づく指針

（2）障害者自立支援機器開発・普及啓発促進事業（新規）

①ニーズ・シーズマッチング強化事業 ②支援機器普及啓発促進事業

障害者等や医療福祉専門職等の使用者が抱える要望（ニーズ）と、開発機関や研究者などの支援機器の開発者が保有している技術（シーズ）のマッチングを図りながら意見交換を行う場を提供するとともに、障害者等が真に必要な製品を選択し、適切に使用できるよう機器の特徴や使い方等を普及・周知することで支援機器の普及を加速させる事業。

（3）実証・普及支援モデル事業（新規）

①支援機器等導入実証事業 ②自立支援機器イノベーション人材育成事業

障害者等と開発企業の仲介に入り実証評価や機器の開発・改良を支援する人材を育成するとともに、障害者等を雇用している企業等において実際に支援機器を使用し、その効果（試用効果及び改良の示唆）について実証を行うことにより、障害者等の就労支援を促進する事業。

3 事業のスキーム

(3)② 自立支援機器等イノベーション人材育成事業

デザイン思考等を用いた開発プロセスを体系的に学ぶワークショップの開催

(2)① ニーズ・シーズマッチング強化事業

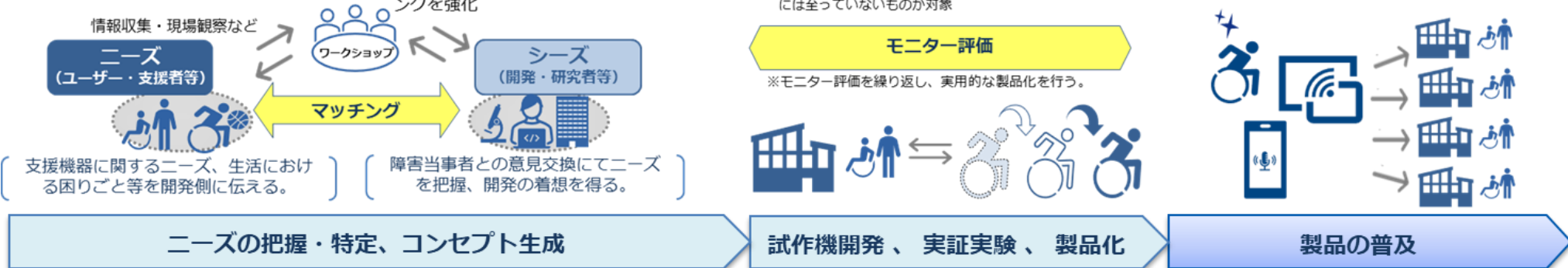
障害者や支援者のニーズ（課題や要望）と企業や研究者等のシーズ（技術）のマッチングを強化

(1) 自立支援機器の開発事業

実用的な支援機器の開発に要する費用を補助
※研究段階を終え基本設計はできているが、試作機の製作までには至っていないものが対象

(2)② 支援機器普及啓発促進事業

支援機器の特徴や使い方等をユーザーに広く情報発信し、利用促進の更なる推進を図る事業



4 実施主体

民間団体（公募）

5 補助率

(1) は、中小企業 2/3（※（1）-②③は初年度のみ10/10）、大企業・公益法人 1/2
(2) (3) は、定額（10/10相当）

◎製品製造・設置費用 2/3（中小企業）1/2（大企業）◎講習・実証評価等の費用 実費補助

障害者自立支援機器等開発促進事業 (令和7年度対象機器)

①テーマ設定型事業（8テーマ）

- 1 **日常生活**を支援する機器
- 2 **コミュニケーション**を支援する機器
- 3 **レクリエーション活動**を支援する機器
- 4 **就労**を支援する機器
- 5 障害者等の支援をより行いやすくする支援機器
- 6 **ロボット技術**を活用した支援機器
- 7 **脳科学の成果**（研究段階のものを除く）を応用した支援機器
- 8 その他、障害者等の**自立と社会参加**を支援する機器

障害者の自立支援機器
全般を幅広く対象

ニーズはあるが開発が
進みにくい機器を対象

②製品種目特定型事業（4種目）

- 1 **盲ろう者が在宅で日常生活関連活動を円滑に行えるよう**支援する機器
- 2 **障害児のスポーツ活動への参加**を支援する機器
- 3 **発達障害児・者の日常生活**を支援する機器
- 4 **知的障害者や精神障害者が自ら管理しつつ、支援者にも必要な情報を共有できる**機器

③指定補助金等に関する指針に基づく事業

多様化する障害像を見据えた自立支援機器の開発

汎用性を見据えた
自立支援機器を対象